



やまと保育園 園だより

園HP



令和7年8月1日発行

やまと保育園の使命（ミッション）

“子どもの最善の利益（幸せ、喜び、育ち・・・）”を最優先に考え、親と連携しながら一人一人の子どもの成長を見守り、全職員と講師とのチームワークで充実した保育環境を整えます。そして、子どもの“自発的な遊び”を通して、豊かな心と生きていく力を育む保育を目指し、親とともに“子育ての楽しさ”を感じあいます。

卒園児がくれたカブトムシ

先日、昭和61年に卒園した卒園児（9回生）の保護者の方から「息子がカブトムシを育てているからやまと保育園にあげたい」との電話がありました。私たちのほうも、この申し出をありがたくお受けし、飼育箱、土、昆虫ゼリーを用意して待っていました。各クラスも飼育箱をセットし準備万端です。

7月最後の土曜日、卒園児（今年のさくら組は49回生になりますからこの児が卒園してから40年経ちます）がカブトムシをもってきてくれました。そこへ、土曜保育の子ども達が集まり、子ども達は、大興奮。歓声を上げ集まってきます。中には、飼育箱をガサガサ振る児も・・・。

子ども達は、自然が大好きです。園庭の木、草花、虫たち、そして夏のヒーローは、やっぱり“カブトムシ”。子ども達は保育室の机の上に置いた飼育箱、その中にいるカブトムシを飽くことなく見えています。「あ！土の中にもぐった。」「なんでうごかないのかなあ・・・」子ども達は触りたくて仕方ない様子。「名前をつけよう、そらをとぶから“そら君”にしよう」「もうひとりはおぶ君ね」と早くも名づけするクラスも。

レイチェル・カーソンは「センス・オブ・ワンダー」という本の中でいっています。

もし私が、全ての子供の成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目をみはる感性」を授けてほしいと頼むでしょう。（中略）

子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情のさまざまなかたちの感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

消化する能力がまだそなわっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりもむしろ子どもが知りたがるような道を切りひらいてやることのほうがどんなにたいせつであるかわかりません。

乳幼児が自然に触れるとき起こる「不思議だなあ、面白いなあ、なぜだろう」という気持ち。園では、この気持ちを大切に、できるだけその時間と場所を保障していきたいと考えています。

そしてこのような貴重な機会を子ども達に与えてくれた40前の卒園児（今はもう立派な大人です！）に感謝しています。

佐瀬 裕子

今月の目標

水遊びを楽しもう！



＜行事の紹介＞

・水害訓練（8/8）

保育園の目の前には石神井川があります。大雨で川の水位が上昇して氾濫の恐れがある際、どこに避難をするのかを訓練します。

・防災訓練（9/1）

様々な訓練を盛り込みながら終日、避難体制で保育します。緊急メールで状況を連絡しますので、引き渡し訓練にご協力をお願いします。詳しい内容は後日配布するプリントをご覧ください。



【クラスの様子 たんぽぽ組】

どろんこ遊びやプール遊び、園庭の草花やベランダ栽培と色々な自然に触れながら、心が大きくなる経験をしているたんぽぽ組。始めて皆でお弁当を食べたり、ベランダ栽培の大きなキュウリに驚いたり、出来なかった事ができるようになったりと、そんな日常の中の「初めて」に一つ一つかわいい感想を伝えてくれます。モヤモヤ、グズグズもたまにしていますが、「幼児組」として周りのお友達に支えられて大きく成長しています。今後も子ども達の素敵な言葉を聴きながら「楽しい」を一緒に見つけていこうと思っています。



8月の予定

1	金	避難訓練
2	土	
3	日	
4	月	
5	火	
6	水	
7	木	
8	金	水害訓練
9	土	
10	日	
11	月	山の日
12	火	
13	水	
14	木	
15	金	
16	土	
17	日	
18	月	
19	火	
20	水	
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	乳児身体測定
28	木	幼児身体測定
29	金	お誕生日会
30	土	
31	日	
9/1	月	防災訓練

*お休みの予定の変更、また当日にお休みになった場合などはお知らせください。